

令和 7 年度第 1 回慢性腎臓病対策推進協議会 議事概要

○日 時：令和 7 年 7 月 25 日（金）19：00～20：30

○場 所：222 会議室

○出席者：群馬県慢性腎臓病対策推進協議会委員 12 名

事務局：健康長寿社会づくり推進課、国保医療課 6 名

傍聴人：1 名

○配付資料

資料 1 群馬県慢性透析患者の現状等について

資料 2 令和 6 年度群馬県慢性腎臓病対策事業実施報告について

資料 3 群馬県糖尿病性腎臓病重症化予防プログラム関係事業

資料 4 県民意識調査結果について

資料 5 令和 7 年度群馬県慢性腎臓病対策事業計画について

○会議内容

1. 開会

2. 挨拶 群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課長

3. 議事 進行：廣村会長

（廣村会長）

議事に入る前に一言御挨拶を申し上げる。この慢性腎臓病対策推進協議会は平成 24 年に発足して、県民の腎臓に対する健康を守る事を目的に行ってきた。透析という視点で見るとなかなか患者数が減らない現状があり、今日の議題の中でも話し合っていきたい。この 1 年しっかりと活動をしていきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

（1）報告事項

① 群馬県の慢性透析患者の現状等について（事務局／健康長寿社会づくり推進課）

- ・ 資料 1 に基づき、最新（令和 5（2023）年）のデータをもとに作成した慢性透析患者の状況等について報告した。

<質疑・意見等>

（廣村会長）

群馬県は糖尿病性腎症が多く、県健康増進計画（元気県ぐんま 2 1（第 3 次））では令和 14（2032）年までに 278 人とする目標を掲げている。全国的に透析患者数は減り始めてきており、群馬県も減ってきているものの依然として糖尿病性腎症の割合は多い。このことについて委員の先生方に御意見を伺いたい。

(植木委員)

以前も申し上げたが、群馬県は透析ができる環境が整っているから患者数が多いとも言え、患者数が少ない県が必ずしも対策がしっかりしているとは限らないと思う。

糖尿病性腎症の患者を減らすための対策として、現在、糖尿病治療には非常に良い薬（注射など）があるが、値段が高く使用できない患者も多い。その辺りの金銭的な支援を真剣に考えていくことも必要だと思う。

(川島委員)

群馬県と栃木県の傾向が似ているのは、文化的背景なども似ていることが関係すると思う。

糖尿病患者の生活習慣指導として食事は重要であるが、どのように指導したらよいか悩むところでもある。

(廣村会長)

普段通院していない方が、突然腎臓が悪くなり透析に至るケースもある。

(筒井委員)

若年者や医療リテラシーが高くない方で飛び込みの透析が増えている印象はある。そのような人たちにどのように周知をしていくかは重要な問題である。

(植木委員)

40 代くらいの若年層で、長年ひきこもっていて、腎機能が悪化し透析に至る方が当院では年間に 2 人程度いる。そのようなケースは健康診断も受けておらず、突然体調が悪くなって搬送されることがある。

(廣村会長)

そのような方は、健診や腎臓病に関する情報に触れてもらうことが難しい。その辺り、保健師の立場からはいかがか。

(佐藤委員)

ひきこもりの方にも健診の案内はしているもののアプローチはすごく難しいと感じている。

みなかみ町では腎機能が悪化する方がここ 5 年で増えた。集団健診の機会を捉えて、腎臓に関するアンケートを実施するなど取組を強化している。

(関沼委員)

健診受診について、一度健診を受けた人のリピート率は比較的高い。いかに無関心層に最初の 1 回目の健診を受けてもらえるかが鍵だと思う。市では若年者へのアプローチを強化しており、健診受診の啓発を強化していきたい。

(上原委員)

群馬県は甘塩っぱいものを好む文化がある。また、毎食漬物を食べ、10 時と 15 時のおやつにも漬物がつくことがあり、塩分を取り過ぎている傾向にある。

一方で、群馬県の透析患者数が多いのは医療体制が整っているからとも言える。A 県などの豪雪地帯は地理的に通院しづらい状況が考えられる。

(川島委員)

A 県は腎臓病専門医が多い地域でもある。

(植木委員)

雪道を運転できず、透析を受けられずに亡くなっている方もいると聞く。

(上原委員)

eGFR 値（推算糸球体濾過量）がどのくらいの方が透析を受けているかなど詳細なデータが分かるとよい。

(廣村会長)

透析を受ける前に亡くなっていればこの患者数には反映されず、詳細なデータを見てみないと分からない。いずれにしても群馬県の透析患者数は少なくはないので、減らす努力は続けるべきかと思う。

(清水委員代理)

腎臓病や糖尿病がこれだけ多いという事実を、医療者でもあまり知らない人が多い。特に外来部門に携わる医療者の知識を強化して、クリニック等で看護師が糖尿病に関する指導をできるとよいのではないかと感じる。

(廣村会長)

ぜひ糖尿病協議会とも一緒に取り組めたらと感じる。

(筒井委員)

透析医療は一つのビジネスになっている側面もある。近隣の県では、入所しながら透析通院できる施設がなく、群馬県の施設に入所し透析を受けている方が年々増えている印象。維持透析患者だけで言えば、近隣の医療提供体制の問題で、群馬県の透析患者が統計に反映されている背景はあると思われる。

(廣村会長)

以前もこの協議会で話題になったが、群馬県へどのくらい他県からの流入があるのか調べられるとよい。

(関根委員)

県健康増進計画（元気県ぐんま 2 1（第 3 次））の透析患者の目標値はどのように算出されたのか。

（廣村会長）

日本腎臓学会において、一定期間に 10%減少させるという目標に準じて県の現状に合わせて設定した。

（関根委員）

群馬県では、健診を受けた方は全員、ヘモグロビン A1c や eGFR などの検査ができるようになっているのか。

（廣村会長）

社会保険の健診では検査項目にないところも一定数ある。

（川島委員）

国民健康保険ではヘモグロビン A1c は検査項目に入っており、クレアチニン値もほとんどの市町村が実施しているはず。

（佐藤委員）

みなかみ町では、社会保険の方の尿酸値とクレアチニン値に関して、事業所健診等にあわせて、希望者には町の費用でクリニック等で検査が受けられるように体制を整えている。

② 令和 6 年度群馬県慢性腎臓病対策事業実施報告について（事務局／健康長寿社会づくり推進課）

- ・ 資料 2 に基づき、昨年度実施した研修会及び県民公開講座、慢性腎臓病（CKD）予防啓発動画の再生回数、県ホームページ閲覧件数等について報告した。

<質疑・応答>

（廣村会長）

昨年度も県事務局を中心に委員の皆様にお世話になり、しっかりと活動できたと思う。

（岡委員）

ブース出展をしてみてもの感想だが、使用可能な物品についての案内が不明確だった。ブース相談では、検査データを持参して具体的な相談をされる方が多かった。不安を抱えている方が多く、そのような方の相談ができたことはよかった。フェスタと講演会を同日開催したことは効率的にできたと思う。従事するスタッフがボランティアになってしまう点について、配慮いただけるとありがたい。

（天田委員）

フェスタと講演会を同時開催したことで、健康意識の高い参加者が多い印象だった。お薬手帳を持参して相談に来た方や、遠方から来た方もいて、一人にかかる時間が多くなってしまった。また、講演会

開催中はブースに立ち寄る人はいなかったため、今後工夫できる余地があるかと思う。

（清水委員代理）

検査データを持参して相談に来られる方が多かった。単に健康の内容だけでなく、今後の人生に関する相談もあった。腎移植に関することなど、看護協会だけでは対応できないことは、東日本腎不全研究会に対応していただくなど連携して行えた。色々な地域から参加されており、広告が上手くいったと思われる。60～70代は新聞をよく見ていることが分かった。しかし若年層を呼び込むには、SNS等での周知を強化することも必要ではないか。

（廣村会長）

民間企業の協力もあり、広範囲に新聞チラシによる広告ができたのは大きかったと思う。若年層への周知は次回以降さらに力を入れていきたい。

（上原委員）

栄養士のブースでも、検査データを持参し相談に来る方が多かった。隣のブースとの距離が近く、声を張り上げないと相談者に聞こえない状況だった。隣のブースとの距離をもう少し確保してもよかった。栄養士4名で対応したが、あと2～3名は必要だった。

（廣村会長）

今まではイオンモール高崎で健康フェスタを開催していたが、今回は県民公開講座と同時開催とした。時間配分やスペースの確保など改善点は次回につなげたい。ブースにも200名を超える来場者があり、よかったと思う。

③ その他

●群馬県糖尿病性腎臓病重症化予防プログラム関連事業（事務局／国保医療課）

- ・ 資料3に基づき、今年度実施事業（糖尿病性腎臓病重症化予防プログラム協力医療機関リストの整備、糖尿病性腎臓病重症化予防プログラム説明会、市町村国保ヘルスアップ事業の充実・強化モデル事業）、プログラムの名称変更等について説明した。

<質疑・応答>

（佐々木委員）

地方分権の大きな流れで、業務が市に移行しており、市の保健師の負担が大きくなってきている。そのために国保医療課とともに、県保健所として市町村支援を行うこととなった。桐生市、みどり市の糖尿病性腎臓病重症化予防プログラムがなかなか進まないという課題について、管内の医療機関へ問題点を伺ったところ、制度そのものが分かりづらいという指摘や、市の事業へ繋げることの手間、金銭的な問題等が挙げられた。その中で、桐生市とみどり市のマニュアル等が異なっていた部分があったので、それを統一することから始めた。今後継続して進めていき、横展開していけたらと思う。

(川島委員)

この事業については開業医の先生方へ定期的に周知をしていくことが大事。市町村での協力体制も徐々に整ってきているので、ぜひ継続して行ってもらいたい。

(廣村会長)

群馬県は糖尿病性腎症による透析患者が多いので、ぜひこの事業を継続して進めていって欲しい。

(佐藤委員)

利根沼田管内は医師会と連携して、糖尿病性腎臓病のマニュアル等は統一されているが、なかなか市町村へ紹介していただくことが少ない。周知が行き届いていない部分があるかと思うので強化していきたい。

(関沼委員)

(当市では)重症化予防は国保医療課が所管しているので詳細は不明だが、健康増進課も連携しながら取り組んでいる。

●県民意識調査結果について(事務局／健康長寿社会づくり推進課)

- ・ 資料4に基づき、CKD(慢性腎臓病)に関する県民意識調査結果(CKDの認知状況、情報のニーズ等)を報告した。

(廣村会長)

この調査はインターネットを使って実施したものになる。設問の中に「県公式アプリ G-WALK+の活用について」という項目があるが、G-WALK+は現在約8万人の登録者数(県民の4～5%にあたる)があり、この調査結果とも類似していることから、信憑性があると考ええる。

CKDの認知度については低く、テレビコマーシャルなどでも放映されているが、最近の若者はそもそもテレビを見ないという現状もある。

この調査については時間をおいて再調査することも検討しており、CKD認知度などがどの程度増えたのかみてみたいと思う。

(上原委員)

この調査結果をみると、「塩分を控えている」と認識している高齢者は多いようだが、実際には塩分過多な食生活をしている人が多く、控えている「つもり」になってしまっているのかもしれない。

血清亜鉛値が補正されると味覚障害が改善されることがあるが、外来で亜鉛値を測定していたりするのか。

(植木委員)

患者から味覚障害の訴えがあり、亜鉛値の測定を希望すれば測定することもあるが、年に1～2人程度。入院患者の場合は食形態を変えたりして対応している。

(上原委員)

亜鉛値を補正すると、元の味覚に戻り食欲が改善することがある。特に甘みと苦みが改善されることがあるようだ。

(2) 協議事項

① 令和7年度群馬県慢性腎臓病対策事業計画について（事務局／健康長寿社会づくり推進課）

- ・ 資料5に基づき、今年度事業案（研修会、県民公開講座、普及啓発、CKD シールの活用）について説明した。

<意見・質疑等>

(廣村会長)

まず研修会についてだが、基礎編は「CKD 診療ガイド」が改訂されたこともあり、そのことを踏まえた研修会を企画している。栄養指導編は昨年度実施した研修会のオンデマンド配信としたい。行政事例編は自治体での取組を2箇所程度発表していただきたいと考えている。

県民公開講座については、今年度は3月14日に太田市で開催とし、令和8年度は9月に沼田市で開催としたい。昨年からは健康フェスタと県民公開講座を同時開催としているが、今年も同時開催で検討している。今年は昨年の反省を踏まえて、時間配分等を変更したい。

(岡委員)

講演会が終わってからブースに立ち寄る方はあまりいなかったもので、ブースは講演会が始まるまででよいと思う。

(天田委員)

同じ意見。

(清水委員代理)

同じ意見。

(廣村委員)

それでは、健康フェスタは午前10時頃から開始として午前いっぱいの開場とし、午後は講演会のみとしたいと思う。前回は、長蛇の列になってしまったブースがあり、整理券を配るなど何か工夫できればと思う。

(天田委員)

骨密度測定が非常に人気で多くの方が並んでいた。

(岡委員)

ブース従事者がボランティアになってしまう点を、お弁当の支給など何か考えていただけるとありがたい。

(廣村会長)

その他に、3月の世界腎臓デーに向けて今年も啓発をしていきたいが、県公式 YouTube チャンネル tsulunots (ツルノス) で配信している啓発動画について、そろそろ各団体でアップデートしていただけるとありがたい。特に食生活編については新しいガイドラインも出ているため、更新していただけるとよいと思う。

企業と連携したインターネット広告とはどのような内容なのか。

(事務局)

企業と連携して実施している広告の一つであり、「健診」や「腎臓病」などの特定のワードを検索すると、広告が表示され、クリックすると県ホームページへ遷移するものである。

(廣村会長)

この広告によって県ホームページの閲覧数の変化など確認して効果をみていただければと思う。

(佐々木委員)

保健福祉事務所以外で CKD 啓発ののぼり旗を配っているのか。

(事務局)

県庁から配布しているのは各保健福祉事務所だけだが、市町村においても何らかの形で啓発している。

(廣村委員)

CKD シールについて、群馬県では早くから取組を行っているところだが、なかなか忙しいと貼付し忘れることもある。

(川島委員)

CKD シールについても会議や研修会などの機会を捉えて、継続的に周知したほうがよい。

(廣村委員)

CKD シールだけでなく、最近処方箋にクレアチニンや eGFR の値を記入する取組を実施しているところもある。済生会前橋病院で実施しており取組を共有できればと思う。

議題は以上になるが、全体を通して御意見等はあるか。

（天田委員）

県薬剤師会から情報提供させていただきたい。県薬剤師会で6月に研修会を開催し、腎臓病と薬をテーマに廣村先生に御講義いただいた。オンライン開催で県（薬剤師会）の薬剤師が85名参加した。

もう一つは、令和7年8月1日から SGLT-2 阻害薬の薬価が下がる予定であり、患者にとってはメリットと思われる。

（廣村会長）

薬価が下がれば幅広く患者へ提供しやすくなり、eGFR の悪化のスピードを押さえることにもつながる。

その他に御意見等なければ、このあとは事務局にお返しする。

（事務局）

以上で、令和7年度第1回慢性腎臓病対策推進協議会を閉会とする。